

環境教育の推進について

小川 正人

〔質疑〕環境問題は一部の人間ではなく、市民全員で考える事が必要となってきている。先日生活環境評論家、松田美夜子先生の「エネルギーと暮らし」という講演が行われ出席の先生方には大変好評であったと聞いている。皆様は感銘を受け環境教育の必要性を改めて感じたのではないで

しょうか、問題提起や教育は小学生から必要と思う。今後の小学校、中学校の学年別の教育をどのように推進していくのか具体的な構想を示してほしい。

クラインガルテン（滞在型市民農園）事業への取り組みについて

四 竈 英 夫

〔質疑〕過疎化、高齢化の進行する中山間地域の活性化と、遊休農地の有効活用のため、クラインガルテン（滞在型市民農園）事業が注目されている。

これは都会に住む農業を体験したいと言う方々に、農地と居住施設を貸し出し、継続的に農業を体験してもらう制度である。

市内には利用されていない農地が沢山ある。それを貸し出しすれば、土地の有効利用が図られ、都市と農村の交流人口も増加するなど、一石二鳥の効果を得られる。よって、この事業へ取り組み考えがなののか伺いたい。

〔答弁〕人間と環境とのかわり方、環境教育というが、これは小学校から発達段階に応じて、関連する教科とか日常の学習の中で行われている。一例を上げると、ごみ減らし運動、ごみの分別とかリサイクルボックスの利用など、日常的な活動の中で学習している。さらに、中学校では、幅広い奉仕活動に現在取り組んでいる。さらに、ことしから県の補助事業として「13歳の社会のかけ橋づくり事業」という形で、中学1年生になっ

たらどの学校でも県内一斉に奉仕活動をやらせよう。思いやりとか公共心とか勤労感をやはり中学1年、小学校から中学校に移動したこの時期にやらせて、なお環境問題に関心を持たせようと現在取り組んでいる。

〔その他の質問〕

- ①市道管理について
- ②電磁的記録式投票機による投票（電子投票）について

滞在していることが大変好評なのではないかと思っている。以上のようなことを考えれば確かにPRにはなるかもしれないが、4億円からの費用をかけるのか、また丸森町では自主的に地元がかかわっているという現状から、小原の方々の合意があるのかどうか、慎重に検討していかなければならないと考えている。



9 休憩施設付き農園（丸森町）



中学1年生を対象に奉仕活動